

「 備えることの大切さ 」

広島県 尾道市立高須小学校 6年 ^{ひらずみ}平住 ^{ゆいな}結葉

私は、土砂災害を一度だけ体験したことがあります。この作文を書こうと思ったきっかけは、自分の体験をふまえて災害に備えることや命の大切さについて考えたことをみんなに伝えたいと思ったからです。

初めに私が体験した土砂災害についてです。私が2年生の時に西日本豪雨が起きました。その前日にも大雨が続いていたので災害が起きてもおかしくない状況でした。土砂くずれが起きたのは、みんなが寝ている深夜の時間帯でした。急に、

「ドーン。ザザザー。」

と大きな音が聞こえてきたので、小さかった私でもその音で目が覚めました。私の家は、土砂くずれの場所から少し離れていたため無事でした。しかし、土砂が流れ込んだ家はグチャグチャになり、その家の人たちは無事なのか分からない状況でした。家から外を見ると土砂で道路もふさがりいつもと全然ちがう景色になっていました。後から聞くと、土砂にうもれた家の人たちも無事だったのでとても安心しました。

「もし、自分の家だったら・・・。」と考えると本当にこわいなと思いました。あの日のことは、今になってもはっきりと覚えていて一生忘れられない体験になりました。あの体験があったから、災害に備えることの大切さに気付き、考えるようになりました。そして、二つの大切なことを知りました。

一つ目は、家でできることです。私の家は災害に強い家ではないので、家族でできることをしていきたいと思います。例えば、防災バッグを用意したり、つっぱり棒で家具を固定したり、高い所に物を置かないようにしたりすることです。そのほかにも、ハザードマップで危険なところをはあくしておくことや家族で避難場所を確認しておくことができます。

二つ目は学校でできることです。学校では災害に備えて避難訓練があります。先生から「訓練は、本番のように。本番は訓練のように。」

と教えていただきました。私は、この言葉の通り学校で行う訓練では、訓練だと分かっているにもかかわらず実際に起きたときのことを考えながら取り組むようにしています。

災害はいつ起きるか分からないので、人間の力では止めることができません。しかし、災害に備えることで被害を減らすことはできます。まずは、自分にできることを考え自分の命は自分で守ること。それを「自助」というそうです。次に、家族や地域の人たちと協力し合うことを「共助」というそうです。そのために、地域の行事に積極的に参加することが大切です。そうすることによって地域の人に自分の顔を覚えてもらえます。もしも、災害が起きた際に、家族と離れてしまっても知っている人がいると安心できます。ボランティア活動もその一つだと思います。炊き出しをしたり、復旧作業を手伝ったりして、近所や地域の人と助け合うことも大きな力になります。

これからも、災害から自分や大切な人の命を守れるように学び続け、西日本豪雨で経験したことをこれからの災害が起きたときに生かせるようにしたいです。